

日々是Oracle APEX

Oracle APEXを使った作業をしていて、気の付いたところを忘れないようにメモをとります。

2022年11月22日 火曜日

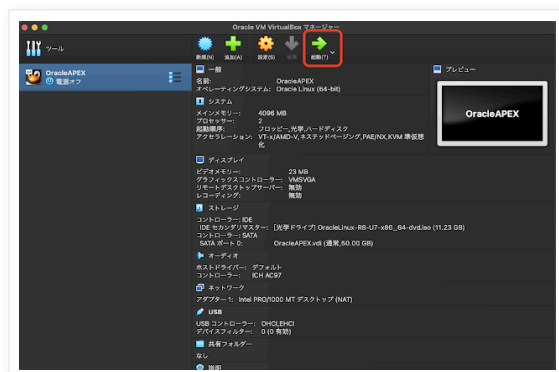
Oracle APEXの環境作成(3) - Linuxのインストール

作成した仮想マシンにLinuxをインストールします。Oracle Linux 8をインストールしますが、RHELクローンであれば手順は同じになるでしょう。

仮想マシンにインストール・メディアが刺さっている状態から始めます。

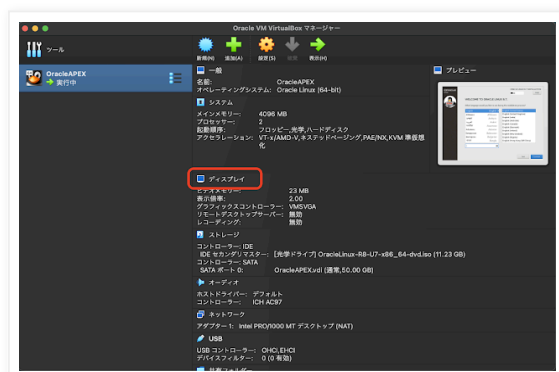
Linuxのインストール

作成した仮想マシンOracleAPEXを起動します。

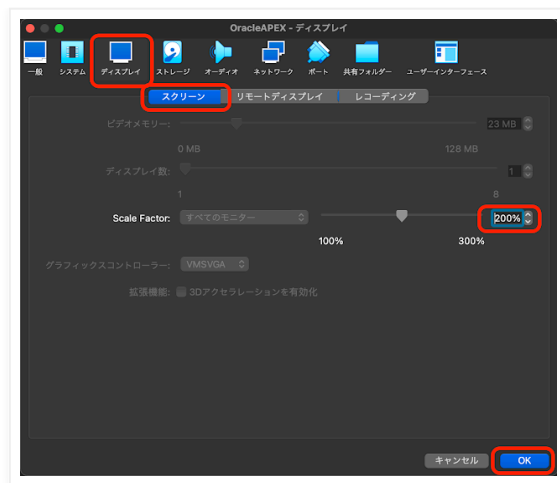


仮想マシンのコンソールが開きます。

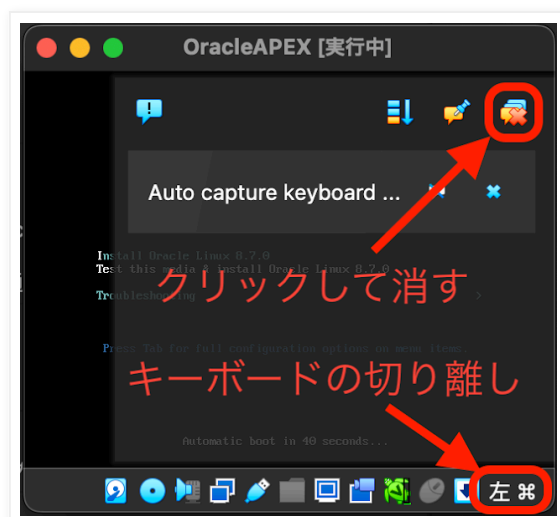
画面が小さくて操作が難しいときは、**ディスプレイ**を変更します（Scale Factorの設定はVirtualBox 7の新機能で、VirtualBox 6にはありません）。



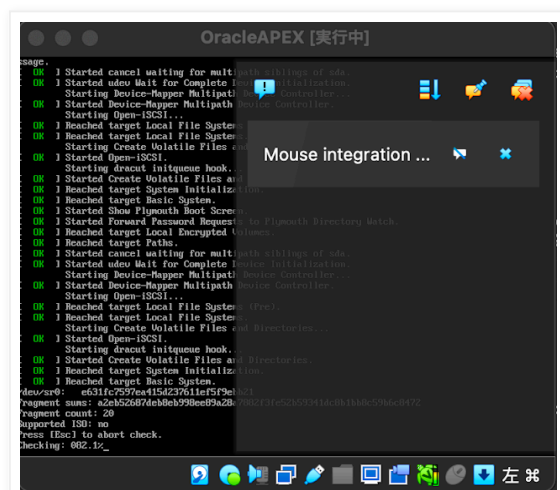
Scale Factorを200に変更し、OKをクリックします。



60秒経過すると自動的にオペレーティング・システムのインストールが開始されます。コンソールにマウス・カーソルを当ててクリックすると、キーボード入力が仮想マシンに割り当たります。割り当たったキーボードをホスト・コンピュータに戻すには右下にある表示されているキーを押下します。macOSでのデフォルトは左コマンド・キーです。Windowsの場合のキーも右下に表示されているので参照してください。

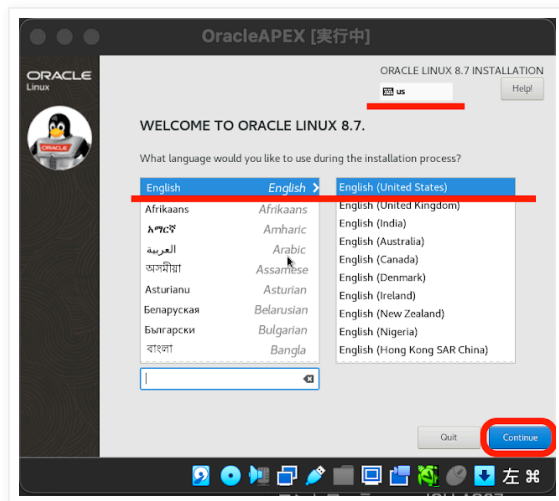


オペレーティング・システムのインストールが開始されると、コンソールに色々とメッセージが表示されます。メディアのチェックなどはEscを入力するとスキップできますが、VirtualBoxのキーボード操作に慣れていない場合は、そのまま待っているのが良いでしょう。それほど時間はかかりません。

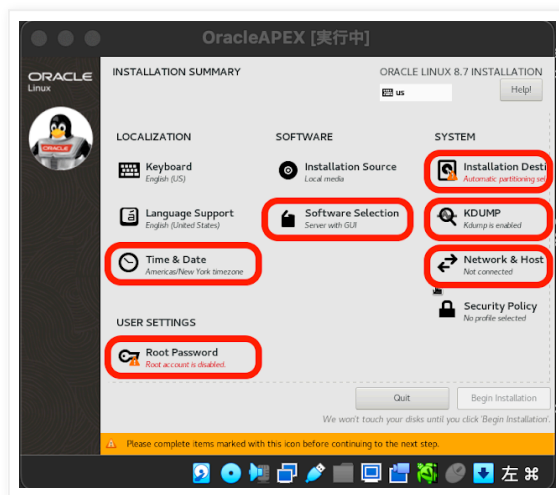


そのまま待っているとGUIのインストーラが起動します。最初に言語の選択があるので、**キーボードのレイアウトはus、言語もEnglish(United States)**を選択します。Oracle APEXのインストール後は仮想マシンにログインして作業することはほとんどありませんし、ここで日本語を選択すると、インストール中の画面の表示が崩れたり、日本語のディレクトリ名が作成されたりと、あまり嬉しいことはありません。設定は変更せずに**Continue**をクリックします。

仮想マシンのコンソール上の最初のマウスのクリックは、ホストのキーボードの割り当てに使われます。そのため、**Continue**のクリックとしては、**2回目のクリック**が認識されます。

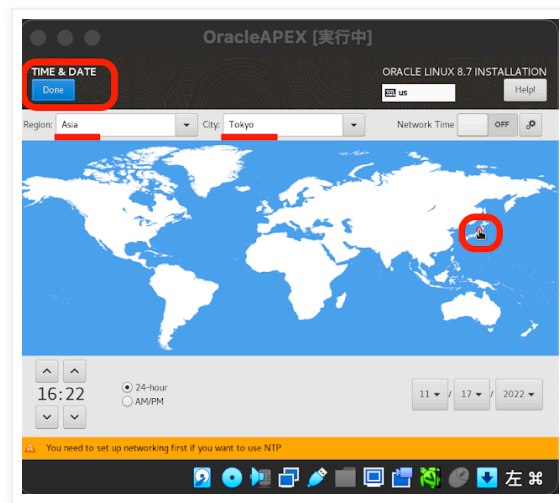


インストールするオペレーティング・システムの構成を継続します。**Time & Date**、**Root Password**、**Software Selection**、**Installation Destination**、**KDUMP**、**Network & Host Name**について設定を行います。



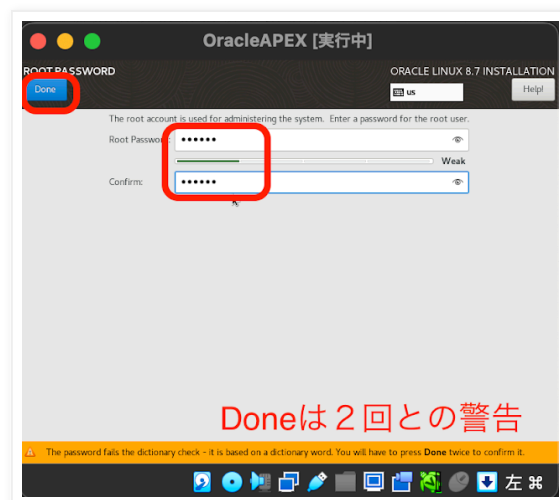
Time & Dateの設定を行います。**Region**は**Asia**、**City**は**Tokyo**を選択すると日本時間になります。場合によってはUTCとするために**London**を選ぶケースもあるかと思います。

設定後に**Done**をクリックします。

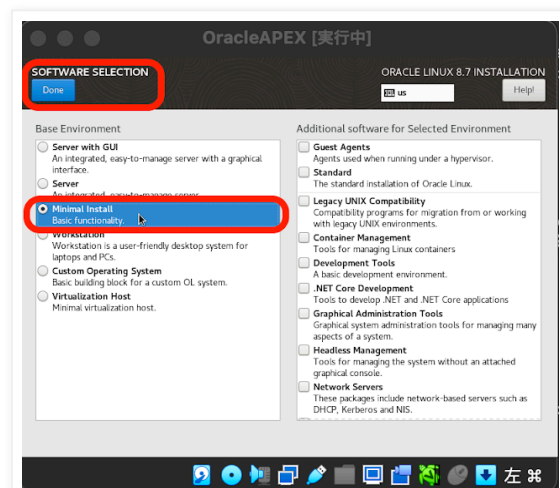


Root Passwordを設定します。Root Passwordへのパスワードの入力と、それと同じ文字列をConfirmに入力します。

文字列として脆弱なパスワードの場合は、Doneを2回クリックして確定する必要があります。



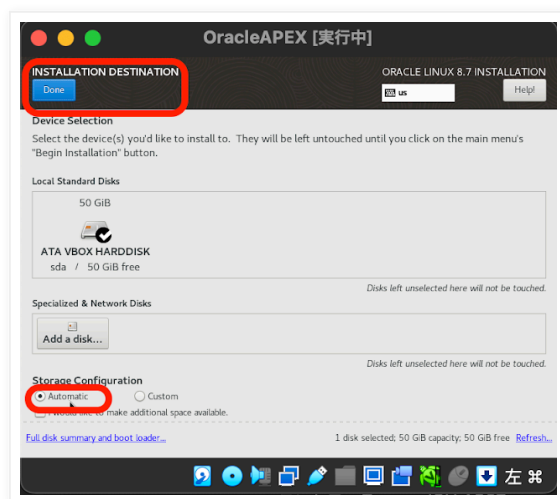
Software SelectionとしてMinimal Installを選択します。Oracle Databaseのインストールに必要なRPMパッケージは、オラクルが提供している事前インストール用のRPMをインストールすると依存関係も考慮した上ですべてインストールされます。そのため、ここでは最小限の指定で十分です。



Installation Destinationを開きます。Storage ConfigurationがAutomaticであることを確認し、自

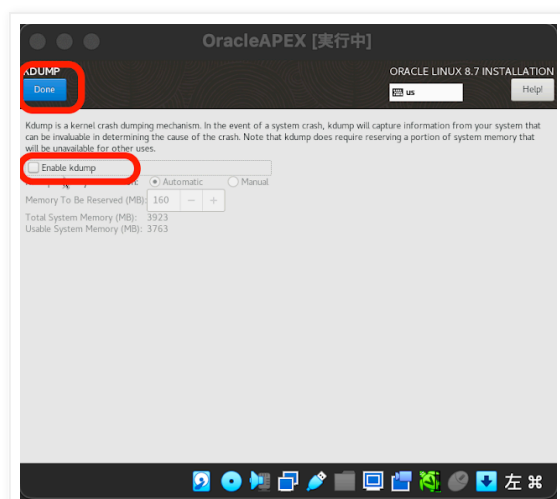
動的に決まるディスク・レイアウトを採用します。

Doneをクリックします。



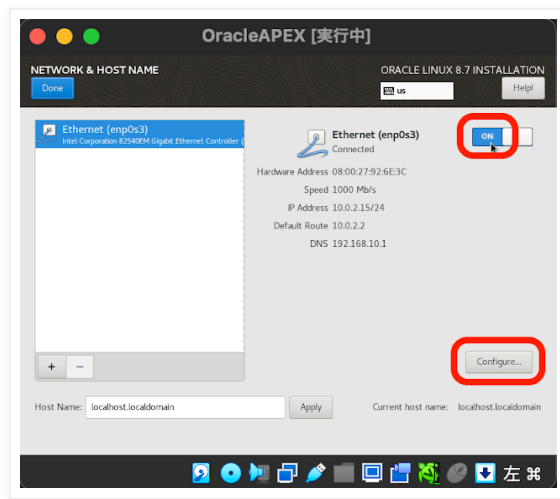
KDUMPはカーネルのデバッグに使用する機能です。そのような作業は行わないので**Enable kdump**の**チェックを外します**。

Doneをクリックします。



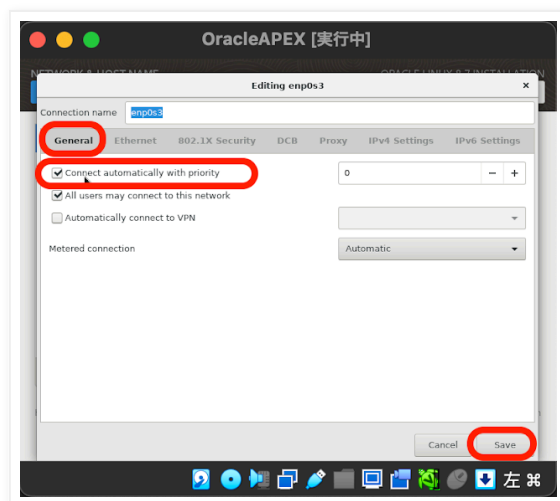
Network & Host Nameの設定を行います。**Ethernet**を**ON**に変更します。仮想マシンにインストールしたOracle APEXへは**http://localhost:8080/**で接続する予定なので、**Host Name**は**localhost.localdomain**のままにしておきます。

Configureをクリックします。

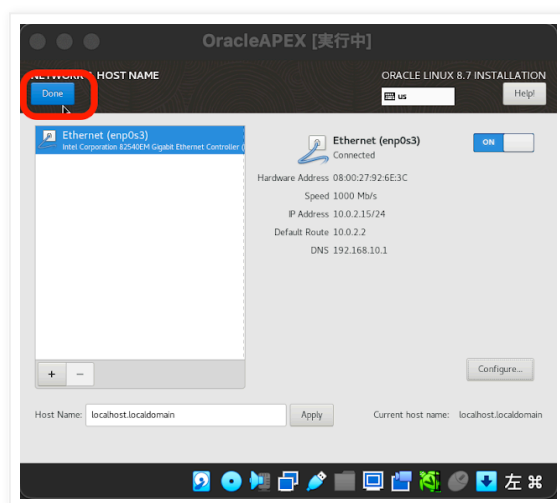


Generalのタブを選択し、**Connect automatically with priority**に**チェック**を入れます。これで仮想マシンの起動と同時に、ネットワークに接続されます。

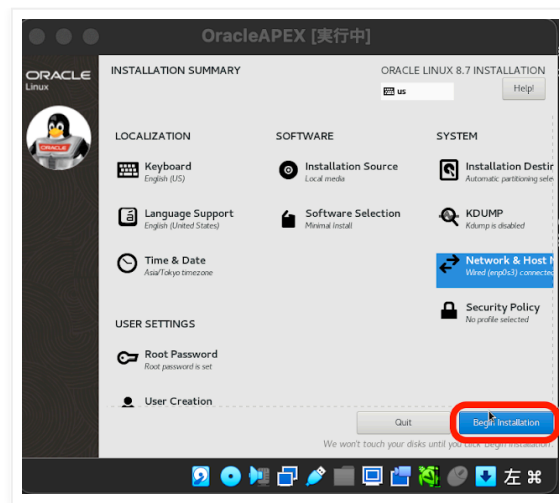
Saveをクリックします。



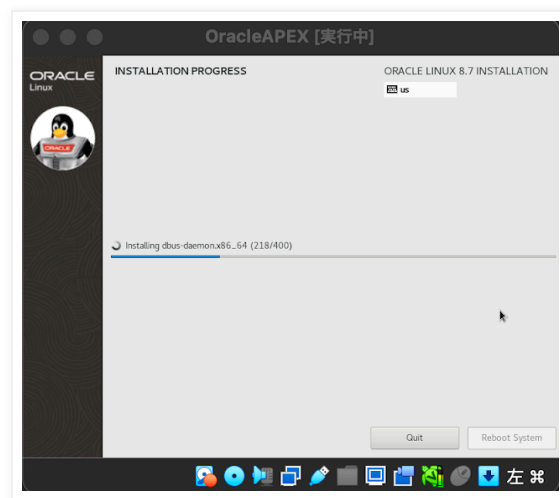
Network & Host Nameに戻るので**Done**をクリックします。



オペレーティング・システムのインストールに必要な事前設定がすべて完了したので、**Begin Installation**をクリックし、インストールを開始します。

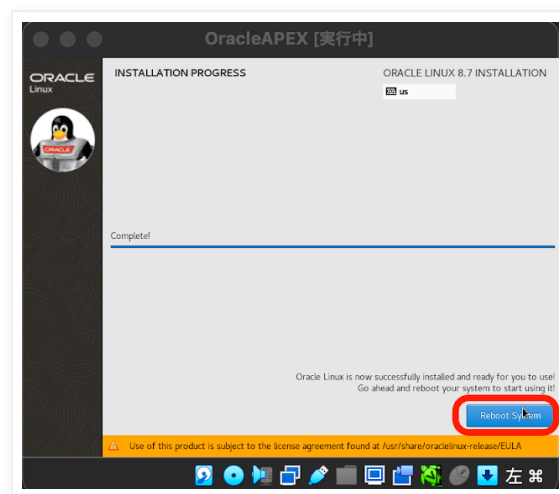


オペレーティング・システムのインストールが開始します。

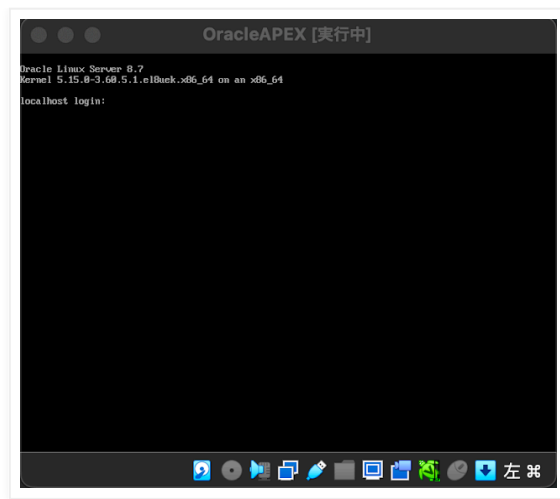


環境に依存するので参考程度ですが、私の環境では7分程度で完了しました。

Complete!のメッセージを確認し、**Reboot System**をクリックします。



再起動が完了するとloginのプロンプトが表示されます。これでオペレーティング・システムのインストールは完了です。

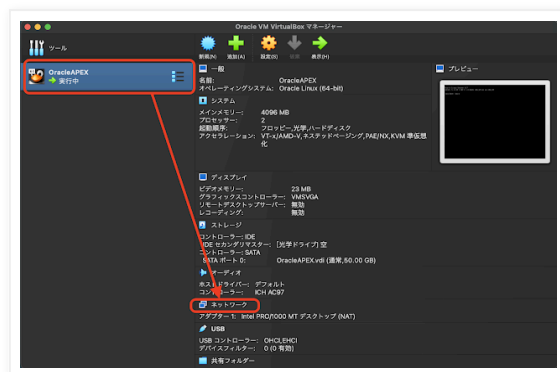


SSH接続とOSのアップデート

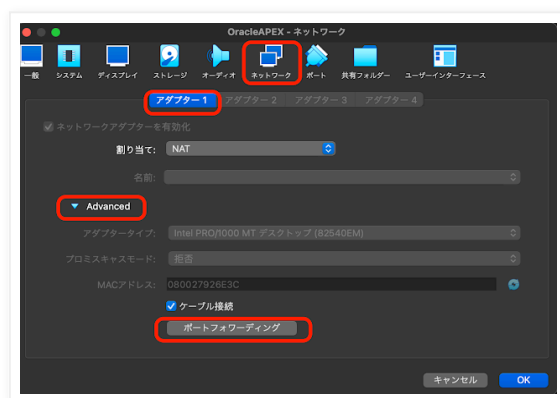
オペレーティング・システムを最新までアップデートします。

コンソールからログインして作業するのはほとんど不可能なので、ポート・フォワーディングの設定を行いSSH経由で仮想マシンにログインします。

VirtualBoxマネージャーより仮想マシンを選択し、**ネットワーク**の設定を開きます。



ネットワークの設定の**Advanced**を開いて、**ポートフォワーディング**をクリックします。



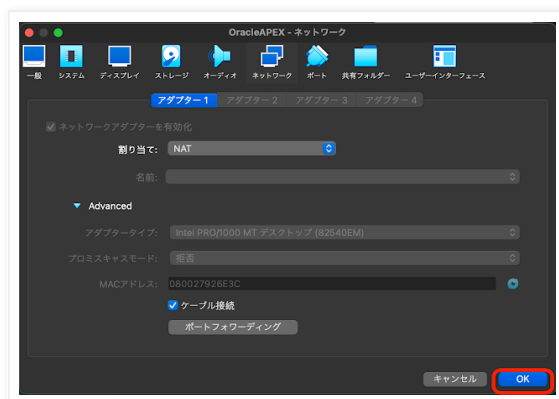
開いたパネルより、ポート・フォワーディングのルールを追加します。**プラスのアイコン**をクリックすると一行追加されます。

名前はSSHとします。プロトコルはTCPです。ホスト・ポートはホスト(つまりWindowsやMac側)で利用可能なポート番号を指定します。通常22のような1024番以下のポートはシステムで予約されているため、それ以上の番号を割り当てることになります。今回は**10022**としました。ゲスト・ポートは、仮想マシン上でSSHが接続を待機しているポート番号です。サービスはSSHなので**22**を指定します。

追加したら**OK**をクリックします。



ネットワークの構成が完了したので、**OK**をクリックします。



ポート・フォワーディングの設定を行うと、ホスト・マシンから指定したゲスト・ポートを指定してSSHで接続できるようになります。**-p**オプションで接続するポート番号として**10022**を指定します。

ユーザー**root**で接続します。

```
ssh -p 10022 root@localhost
```

```
% ssh -p 10022 root@localhost
The authenticity of host '[localhost]:10022 ([127.0.0.1]:10022)' can't be
established.
ED25519 key fingerprint is SHA256:6Brbo8Y/A2QYMEpc0JnSnyqC2y6Q96qv3YoDpJUKg2M.
This key is not known by any other names
Are you sure you want to continue connecting (yes/no/[fingerprint])? yes
Warning: Permanently added '[localhost]:10022' (ED25519) to the list of known
hosts.
root@localhost's password: *****
[root@localhost ~]#
```

コマンドラインのsshからの初回接続の場合は確認を求められ、**yes**を入力すると
~/.ssh/known_hostsファイルに公開鍵のフィンガープリントが登録されます。

接続先（この場合localhost:10022）にフィンガープリントが登録済みの場合、以下のように警告が表示されます。SSHで接続できるようにするには、**~/.ssh/known_hosts**より登録済みのフィンガープリントの行を削除する必要があります。

削除が必要な行は、警告メッセージに含まれています。以下の例では、known_hostsの33行目が削除の対象です。

```
Last login: Thu Nov 17 14:21:00 on console
% ssh -p 10022 root@localhost
@@@@@@@@@@@@@@@@@@@@@@@@@@@@@@@@@@@@@@@@@@@@@@@@@@@@@@@@@@@@@@@@@@@@@@@@@@@@@@@@
@    WARNING: REMOTE HOST IDENTIFICATION HAS CHANGED!    @
@@@@@@@@@@@@@@@@@@@@@@@@@@@@@@@@@@@@@@@@@@@@@@@@@@@@@@@@@@@@@@@@@@@@@@@@@@@@@@@@
IT IS POSSIBLE THAT SOMEONE IS DOING SOMETHING NASTY!
Someone could be eavesdropping on you right now (man-in-the-middle attack)!
It is also possible that a host key has just been changed.
The fingerprint for the ED25519 key sent by the remote host is
SHA256:6Brbo8Y/A2QYMEpc0JnSnyqC2y6Q96qv3YoDpJUKg2M.
Please contact your system administrator.
Add correct host key in /Users/*****/.ssh/known_hosts to get rid of this
message.
Offending ECDSA key in /Users/*****/.ssh/known_hosts:33
Host key for [localhost]:10022 has changed and you have requested strict checking.
Host key verification failed.
%
```

オペレーティング・システムを最新までアップデートします。

dnf -y update

```
[root@localhost ~]# dnf -y update
Failed to set locale, defaulting to C.UTF-8
Waiting for process with pid 1165 to finish.
Last metadata expiration check: 0:00:12 ago on Thu Nov 17 17:30:55 2022.
Dependencies resolved.
=====
Package                Arch    Version                               Repository                Size
=====
Upgrading:
e2fsprogs               x86_64  1.46.2-2.el8                         o18_UEKR7                  1.0 M
e2fsprogs-libs          x86_64  1.46.2-2.el8                         o18_UEKR7                  242 k
libbpf                  x86_64  2:0.6.0-6.el8                       o18_UEKR7                  162 k
libcom_err               x86_64  1.46.2-2.el8                         o18_UEKR7                   51 k
```

[中略]

```
libss-1.46.2-2.el8.x86_64
platform-python-3.6.8-47.0.1.el8_6.x86_64
python3-libs-3.6.8-47.0.1.el8_6.x86_64
rhnsd-5.0.35-3.0.1.module+el8+5192+3173336a.x86_64
tzdata-2022f-1.el8.noarch
xfsprogs-5.15.0-1.0.1.el8.x86_64
```

```
Complete!
[root@localhost ~]#
```

カーネルが変更されている場合もあるので、オペレーティング・システムを再起動します。

shutdown -r now

```
[root@localhost ~]# shutdown -r now
```

Connection to localhost closed by remote host.
Connection to localhost closed.

以上で、Oracle Linux 8のインストールは完了です。

続く

Yuji N. 時刻: 14:00

共有

<

ホーム

>

[ウェブ バージョンを表示](#)

自己紹介

Yuji N.

日本オラクル株式会社に勤務していて、Oracle APEXのGroundbreaker Advocateを拝命しました。
こちらの記事につきましては、免責事項の参照をお願いいたします。

[詳細プロフィールを表示](#)

Powered by Blogger.